

CATHAY

都留文科大学 国際共同研究

アジア英語文学と揺れ動くモダニズム

English Writings in Asia and Modernism in Motion:
From Japanese, Indian and Chinese Perspectives

日時：2019年1月17日（木）10:50~12:10

場所：3号館2Fラウンジ

講演題目：Ezra Pound's Asian Eyes: From Museum

Exhibitions to Modernist Poetry

講師：Min CHEN 陳敏（杭州師範大学）

司会：中地幸（都留文科大学英文学科）

研究プロジェクトについて 21世紀になって、モダニズムをどのように考えるかは多くの批評家の論点となっている。ローラ・ドイルとローラ・ウインケルは、『ジオモダニズムズー人種、モダニズム、モダニティ』（2005）において、グローバル・モダニティの文化的・政治的ディスコースと関係した「ジオモダニズム」という用語が導入しながら、世界におけるモダニズムの相互関連性について論じた。2009年にダグラス・マオとレベッカ・ウォルコウィッツは「新モダニズム研究」という論文を発表したが、彼らは「新モダニズム研究」の地平を、歴史的、地理的な範囲の拡大とハイアートとローアートの区別の崩壊の上に位置づけた。またスーザン・フリードマンは「惑星的モダニズム」という用語のもとモダニズムの時空の拡大を説く。さらにデビッド・ジェイムズとウルミラ・セシャギリは、モダニズムの遺産を受け継いだ現代文学を「メタモダニズム」という語で定義し、現代文学とモダニズム文学をつなぐ重要な視点を提供した。本プロジェクトは、上記のような21世紀のモダニズムへの批評家たちの挑戦を出発点としながら、アジア英語文学の視点からどのようにモダニズムの再定義をはかれるかという大きな問題に挑戦するものである。（研究代表者 英文学科教授中地幸・共同研究者 英文学科特任教授大平栄子・米国セント・ノバート・カレッジ教授鳥本幾子・杭州師範大学講師陳敏）

問い合わせ：中地 nakachi@tsuru.ac.jp

英語講演・入場無料

EZRA POUND

